

●働くものの月刊学習誌 毎月1回1日発行/2017年10月1日発行/1960年11月2日 第3種郵便物許可

まなぶ 10

2017 / No.725

特集 文化活動になぜ取り組むの？

文化活動は働く者にとって闘いそのもの/歌のもつ'怖さ、
と可能性/人間らしさを取り戻すための力を生み出す活動



歌のもつ「怖さ」を感じながらも、

「可能性」を広げたい

埼玉県坂戸市市議会議員（社民党）

武井 誠



ギターを弾きながら「ヒロシマの有る国で」を歌う著者

ギ

ターを弾きながら、歌を聴いても
らうのが好きです。独特の緊張感

も好きですし、拍手、手拍子、とくに聴
衆のみなさんがいっしょに歌ってくれて
盛り上がったりとすると、なんとも言えな
い幸せな気持ちになります。

中学校教員だった頃は、担任するクラ
スで子どもたちに聴いてもらったり、い
っしょに歌ったりしていました。替え歌
もつくりました。教員仲間でバンドを結
成し、「3年生を送る会」や地域の夏祭
り、日音協の「はたらくものの音楽祭」、

日教組の「教育研究全国集会」などで発
表しました。

ワーク・ライフ・バランスなどという
言葉をほとんどだれも知らない頃です。
いまも残っています。当時はより強く
「遅くまで学校にいて長く仕事をする教員

が、学校を支えるいい教員」という常識
が学校を支配していました。その中でバ
ンド活動をする私たちの、「8時間寝て8
時間働いたら、残りの8時間は自分や家
族や地域や社会を楽しく、よくすること
に使う。各々の8時間を充実させること

が、他の8時間にいい影響を与える」と
いう考え方に共感し、教職員組合に加入
してくれた仲間もいました。

ソ

ロとしても（笑）、埼玉平和運動セ
ンター主催の「ヒロシマに学ぶ埼

玉子ども代表団」の結団式、憲法フォー
クジャンポリー、ヒロシマ市民の描いた
原爆絵画展、私の住む地域の大人や子ど
もたちの交流会、坂戸市民が原発事故被
災地である福島県郡山市の子どもたちを
招き、楽しい夏休みをプレゼントする集
2
団宿泊活動「広げよう小さな輪2017
in坂戸」などにギターを持ち込み、平和
の歌、連帯の歌などを歌いつづけてきま
した。

先日は、社民党の自治体議員団の一員
として沖縄の辺野古で座り込み、「沖縄を
返せ」「座りこめここへ」などを歌ってき
ました。沖縄の平和運動をリードする山
城博治さんが作詞した「沖縄、今こそ立
ち上がる」を「美しい5月のパリ」の

メロディに載せて、みんなで歌ったときは感動し、元気をもらいました。もちろん地域での沖縄連帯行動や、脱原発集会などでも歌っています。

議

議員、党の役員としても、あいさつ、街頭演説、スピーチ、講演、報告などをする中で、意識的に歌うようにしています。

写真は、今年の7月にさいたま市で開催された「被爆72周年反核・非核交流会」に参加し、あいさつ、連帯の気持ちを込めて「ヒロシマの有る国で」を歌わせていただいているところです。話をするときには心がけているのは、第一に、与えられた時間を守ること、第二に、その中で、私の思いをできるだけ聴く人に伝えていくことです。でも、伝えたいことがたくさんあり、与えられた時間では足りないことがしばしばです。そこで、意識的に、自作したものやSNSなどで見つけた川柳、狂歌、都都逸、キャッチコピー、そ

してその場に一番ふさわしいと考える歌、替え歌などで思いを凝縮させます。スピーチだけでは伝わらないものが伝わった、という手ごたえを感じる時もあります。

通

俗的な言い方を借りれば、「左脳の機能は論理的な事柄を司る機能」と右脳の機能は感性・感覚を司る機能」とした場合、右脳ばかりを刺激して、左脳をないがしろにする危険性についても、忘れてはならないでしょう。

典型的な例が軍歌です。私の父は、海軍予科練で特攻隊に志願した直後に敗戦を迎えました。ですから私は、軍隊の恐ろしさとともに、軍国主義教育の恐ろしさを父から何回も聴きました。私が教員になりたいと言った時の「教育は素晴らしいが、恐ろしいものだ。私のような人間をつくってはいけない」という父の言葉はいまも忘れられません。

しかし、というか「だから」というか、彼の青春の歌は軍歌であり、これも（と

くに酒を飲んだ時の）父から教わり、私はいまでも軍艦マーチはもとより「加藤隼戦闘隊」「ラバウル航空隊」「愛国行進曲」なども歌詞カードを見ないで歌えます。そして気持ちが高揚する自分に驚き、歌というものの「怖さ」を感じます。

軍

歌ほどではなくても、はつきりさせるべきところをあいまいにしたままの連帯感を演出するのに、歌の力を借りることもあります。

みんな一杯飲みながら、ギターをもちだし、あるいはカラオケで「演歌」や「青春歌謡」を歌うときなどです。それはそれでストレス解消の場として楽しんでいきます。しかし、しっかりと話さなければならぬときには慎重に曲を選び、スピーチとの整合性を考え、そのことで逆に、伝えたいことが自分の中で明確になるようにしなければならぬと思います。歌とスピーチの「あわせ技で、一本」。